



奈良県クビアカツヤカミキリ 確認マニュアル



奈良県景観・自然環境課
2024 年 4 月



はじめに

特定外来生物のクビアカツヤカミキリの被害が、2019年に奈良県でも確認されました。

クビアカツヤカミキリは、サクラ、ウメ、モモなどのバラ科の樹木を食害し、枯死に至らせる昆虫です。防除方法は、伐採以外の方法での100%駆除は難しく、被害の確認が遅れると、防除するための費用も手間もかかり、完全な防除が困難になります。

県内のサクラ、ウメ、モモ等で被害を拡大させないためには、早期発見・早期防除を行うことが大変重要です。早期発見のためには、できるだけ多くの「目」で確認し、クビアカツヤカミキリの侵入にいち早く気づくことが必要です。

本書はクビアカツヤカミキリに関する被害の発見に役立つ情報をまとめたものになります。本書をきっかけとして、県民のみなさまにクビアカツヤカミキリについて知識を深めていただき、早期発見にひとりでも多くの方にご参加いただけたら幸いです。

目 次

I.クビアカツヤカミキリの被害	1
1. 被害木、被害地の状況	1
2. 全国の被害状況	2
3. 奈良県での被害状況	2
II.クビアカツヤカミキリはどんな虫か	3
1. クビアカツヤカミキリの特徴	3
2. 間違えやすい昆虫	4
3. 幼虫・脱出孔の特徴	5
4. フラスの特徴、似たフラス	7
5. 被害にあう樹木の種類	8
6. 成虫・フラスの確認方法	9
III.防除対策	10
1. スプレー式殺虫剤による防除（発生初期の防除）	10
2. ネット巻きによる防除	11
3. 樹幹注入式殺虫剤による防除	12
4. 散布式殺虫剤による防除	12
5. 被害木の伐採、処分	13

I. クビアカツヤカミキリの被害

1. 被害木、被害地の状況

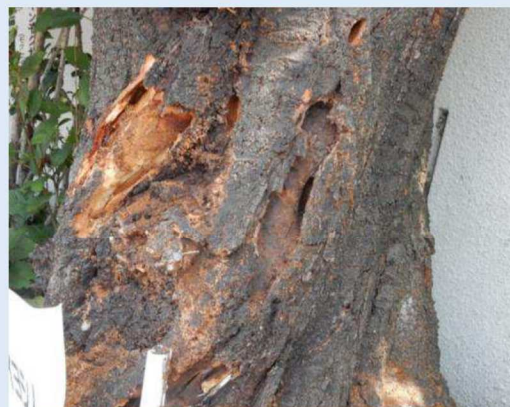
・クビアカツヤカミキリの被害にあうと…

クビアカツヤカミキリの幼虫が樹木内に入ると、内部を食い荒らし、**フラス**（幼虫のフンと木くずが混ざったもの）を大量に排出する。



・被害が進むと…

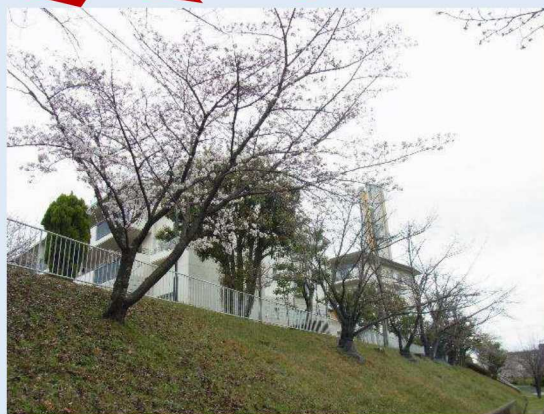
幼虫によって樹木が成長する部分や水分や養分の通り道が食害されるため、樹木は大きなダメージを受け、樹幹の一部が枯れたり、枝枯れが起こる。



幼虫の被害は樹木の内部まで至り放置すると枯れてしまう！



被害初期のサクラ



数年後のサクラ（奥の木は枯死）

写真提供：シンジェンタジャパン（株）

2. 全国の被害状況

2012 年 7 月に愛知県（名古屋）で初めて被害が確認された後、関東地方と関西地方、東海地方を中心に拡大し、2023 年度までに 13 都府県で確認されています。

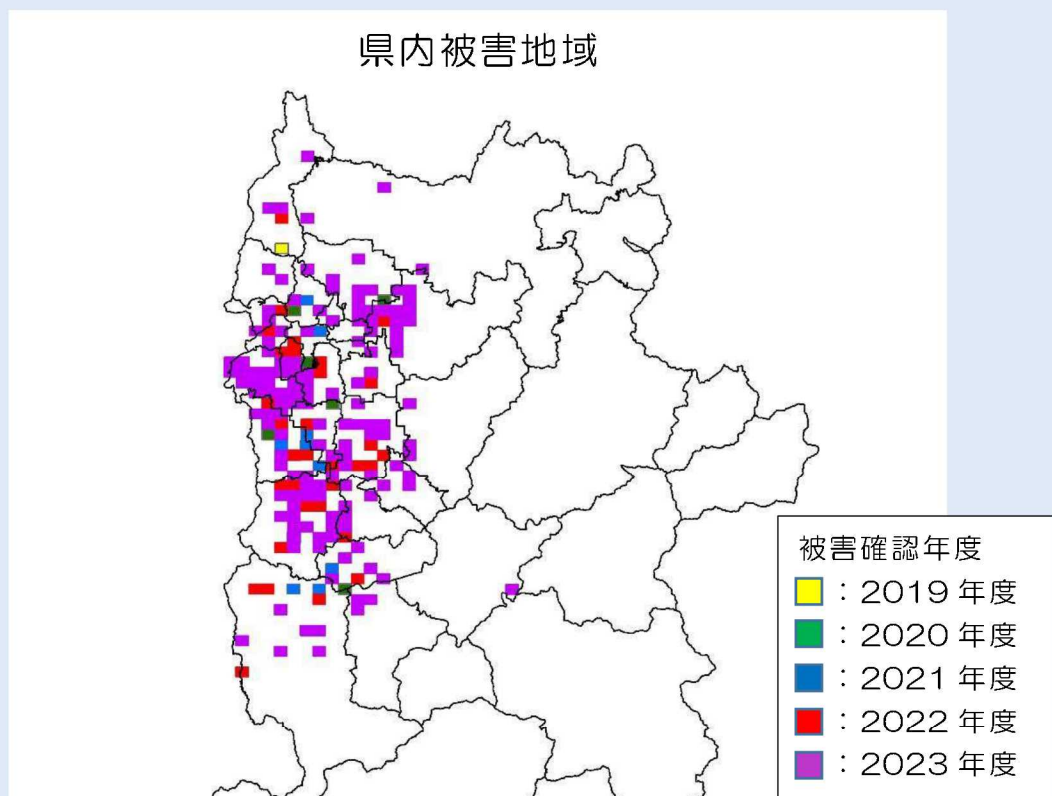


国内への侵入経路は不明ですが、輸入木材、梱包材などの資材で各地に持ち込まれた可能性が高いとされています。

近隣府県では 2015 年大阪府南部をかわきりに被害が拡大、2019 年和歌山県、三重県、2022 年には兵庫県で確認されています。

3. 奈良県での被害状況

奈良県では、2019 年に初めて 2 市町で被害木が確認されました。それから 5 年となる 2023 年度には 26 市町村のサクラ、モモ、スモモなど 700 本以上の被害木が確認されています。



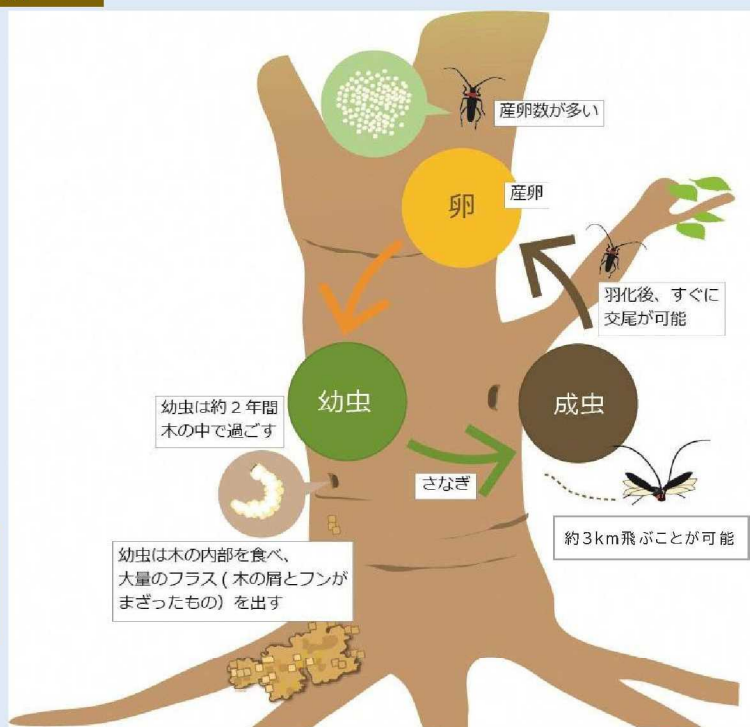
Ⅱ. クビアカツヤカミキリはどんな虫か

1. クビアカツヤカミキリの特徴

クビアカツヤカミキリの生活環

- 幼虫は、4月～10月樹木の内部を食害し、大量のフラスを排出する
- 5～8月にさなぎから成虫になり木から脱出する
- 成虫は車などに付いて長距離移動することもあると言われている
- メス1匹で卵を約300個以上産むことが可能

高い繁殖力、移動能力をもつため、被害が拡大しやすい



クビアカツヤカミキリの形態

資料提供：公益財団法人吉野山保勝会



成虫 メス♀

胸の前部分が赤い

背が黒くツヤがある

ジャコウのような匂い

体長 2.5～4cm

オスは体より触覚が長い



成虫 オス♂

写真提供：伊藤ふくお氏



幼虫



卵

楕円形。長径1～1.5mm程度
樹皮の割れ目などに産み付けられる

写真提供：埼玉県環境科学国際センター

注意！クビアカツヤカミキリは特定外来生物です！！

クビアカツヤカミキリは外来生物法で特定外来生物に指定されています。
このため、生きたままの個体の運搬や販売、飼育、野に放つこと等が禁止されています。

成虫を見つけたら持ち帰らず、その場で捕殺してください。

2. 間違いやすい昆虫

ゴマダラカミキリ



背中に白い斑点
昔から日本にいる在来カミキリ
体長2.5～3.5cm

ホタルカミキリ



主にネムノキ（マメ科）の枯死木につく

胸部は赤いがツヤがない

体長 7～10mmと小型

ヨコヅナサシガメ

背側



腹側



クビアカツヤカミキリの幼虫の天敵！サクラの樹皮の割れ目などに群生していることが多い。

お腹側が赤い

写真提供：伊藤ふくお氏

3. 幼虫・脱出孔の特徴

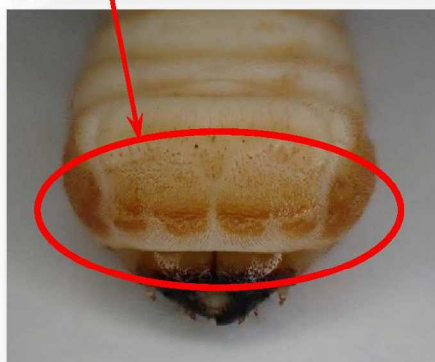
幼虫の形態

クビアカツヤカミキリ

全体

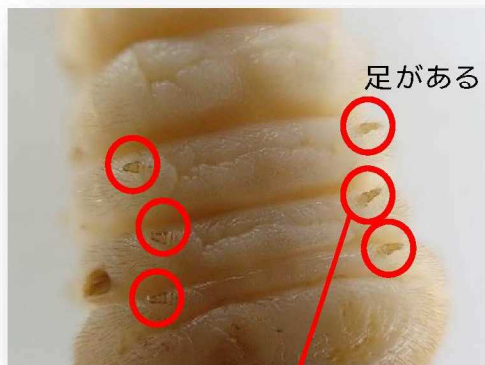


頭部



模様が異なる

腹部



拡大



ゴマダラカミキリ



足がない



コスカシバ

足は明らかに大きい



ちなみに、コスカシバの幼虫は・・・
頭部全体が褐色で、逆U字型の縫合線がある。

脱出孔の形態

クビアカツヤカミキリ

・脱出孔

・脱出予定孔



楕円形
長径2～3cm程度
成虫が脱出した跡



これから成虫が脱出する穴
樹皮が薄く残されている

ゴマダラカミキリ



円形（まんまる）
直径1.5cm程度

4. フラスの特徴、似たフラス

クビアカツヤカミキリ

うどん状



粒状



彫刻刀の丸刀で削ったような形状
均一な大きさ、明るい色の粒子

拡大すると…

ゴマダラカミキリ



繊維状



木の繊維が残ったような形状

コスカシバ



拡大すると…



顆粒状



団子状に木くずが固まった形状

5. 被害にあう樹木の種類

主に被害にあうバラ科

桜のなかま

公園や名木などに多い種類

エドヒガン



山に多い種類

カスミザクラ



オオヤマザクラ



オオシマザクラ



＜桜の樹皮の特徴＞
エドヒガンを除き、多くの桜は横線(皮目)が多数みられる

ヤマザクラ



“染井吉野” (ソメイヨシノ)



桃のなかま



バラ科が大好き!!

クビアカツヤカミキリは、特に桃や桜が大好きである。早めにこれらの樹木を探して、被害にあうかどうか、観察しよう!
見分け方は花や果実で見分けるとわかりやすいが、実や花のない時期は、葉の形、冬芽や樹皮に注目して判定してみよう。

被害未確認のバラ科

梨のなかま



リンゴ



林檎のなかま

梅のなかま



バラ科の特徴

5枚の花びら



6. 成虫・フラスの確認方法

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
【時期】 成虫												
フラス												

【確認場所】

- ・サクラ、ウメ、モモ、スモモの高さ2.5m程度までの樹幹、枝、根元

【確認手順】

- ☐ 根元にフラスが積もっていないか
- ☐ 樹幹からフラスが吹き出していないか
- ☐ (フラスがない場合でも) 樹幹から樹液が噴き出していないか
- ☐ 脱出孔はないか
- ☐ 成虫が止まっていないか
 - 成虫はその場ですぐに捕殺すること。

(生きたまま持ち運ぶことは法律で禁じられています!)



資料提供：公益財団法人吉野山保勝会

【確認事項】

- ・成虫、フラスの出ている場所の写真を撮る。
- ・フラスが出ている木、成虫がいた場所を地図上に記録する。
- ・可能な場合はフラスを採取する。



県、市町村の担当課まで情報提供してください。

Ⅲ. 防除対策

1. スプレー式殺虫剤による防除（発生初期の防除）

被害の発生初期に、樹木内を食害する幼虫を駆除します。

【用意するもの】

スプレー式殺虫剤、千枚通し、ブラシ、マイナスドライバー、針金

【手法】

① フラスの排出孔を探す

- ・フラスが排出されている枝や幹をブラシなどで掃除し、排出孔を探す。

② 孔内のフラスをかきだす

- ・千枚通しなどを使ってフラスをかきだす。
- ・可能であれば、マイナスドライバー等で孔を広げて幼虫を取り出するか、針金で幼虫を刺殺する。

③ 殺虫剤を注入する

- ・殺虫剤が孔からあふれ出るまで注入する。

※使用できる薬剤については、登録農薬リスト（p.14）を参照

④ 経過観察

- ・おおむね 1 週間後に、再びフラスが出ていないか確認する。
- ・フラスがでている場合は①～③の作業を繰り返し行う。



※殺虫剤ごとに、使用回数や使用方法が定められていますので、ラベルをよく読んで使用しましょう。

2. ネット巻きによる防除

成虫発生時期に、ネットを巻いて成虫が飛散するのを防ぎます。

※あくまで飛散防止目的です。防除は別の方法で行ってください。

【用意するもの】

目合い4mm以下のネット、ガンタッカー、ひも、ホッチキス、結束バンド、ペグ、ハンマー等

【手法】

① ネットを樹幹に巻き固定する

- ・ネットを巻き付けて、ガンタッカーで上部を固定し、ひもでしばる。
- ・幹とネットの間は十分に余裕をもたせるように巻き付ける。

② ネットの開口部をとじる

- ・ホッチキス、結束バンド等で隙間ができないように閉じる。

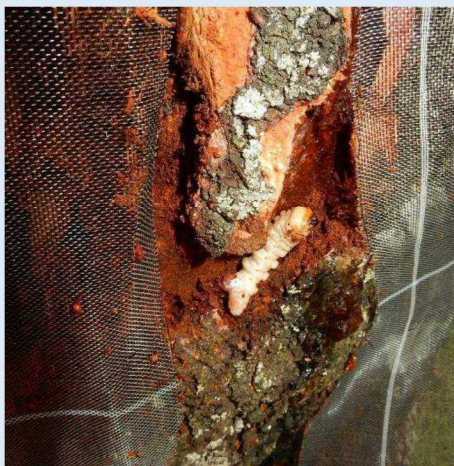
③ ネット下部をペグ等で地面に固定する

④ 経過観察

- ・定期的に見回りを行い、ネット内で成虫が羽化していたら捕殺する。
- ・フラスが大量に出ているようであれば、ネットをあけてスプレー式殺虫剤などを注入し、幼虫を駆除する。



上部、下部に隙間を作らない



こまめな見回りと捕殺が必要

3. 樹幹注入式殺虫剤による防除

樹木が根から水を吸い上げる力を利用して、薬液を樹幹内にいきわたらせ、幼虫を駆除します。

【時期】

- ・通年（薬剤によっては新葉展開後～落葉期）

【用意するもの】

樹幹式殺虫剤、注入器（必要に応じて）、電動ドリル、メジャー、傷口癒合剤、ゴム手袋、ゴーグル、マスク

【手法】

- ① 樹体の地際部に穴を開け、木の太さに応じた薬液量を注入する。
- ② 殺虫剤が浸透したことを確認して、注入孔を傷口癒合剤でふさぐ。

※被害が激しい木や、樹勢が衰えた（葉が少ない）木では効果が低いので、できるだけ被害の初期に使う。



樹幹注入の様子

4. 散布式殺虫剤による防除

幹や枝に殺虫剤を散布して、飛来した成虫や孵化直後の幼虫を駆除します。

【時期】

- ・6月～8月（成虫の野外発生時期）に複数回

【用意するもの】

散布式殺虫剤、噴霧器、バケツ、ゴム手袋、ゴーグル、マスク、雨カッパなど防護衣

【手法】

- ① 樹皮の割目や幹の窪みを含む木全体に薬剤を散布する。

※使用できる薬剤については、関係機関に相談する。

5. 被害木の伐採、処分

被害木を伐採し、破砕あるいは焼却処分することで、樹木内部の幼虫を完全に駆除します。

【時期】

- ・ 9月～翌年 4 月（成虫の脱出時期以外）

【手法】

① 伐採

- ・ 被害木を伐採する。可能であれば切り株も掘り取る。
- ・ 切り株を残す場合は 2 年程度ネット等で覆い、切り株が完全に腐るまで続ける。ネット内に成虫を見つけたら捕殺する。

② 処分

- ・ 市町村の清掃工場で焼却可能な場合は、ネット又はビニールシートで二重に覆って飛散防止措置をした上で運搬し、運搬後は直ちに焼却処分を行う。
- ・ 焼却ができない場合は、現地でチップパーにより破砕、又は近隣のチップ工場で破砕する。
- ・ チップは 10mm 以下とすること。

※直ちに焼却又破砕を行うことが困難な場合は、伐採木を防風ネット又はビニールシートで二重に覆い、焼却・粉砕まで成虫が飛散するのを防ぐ。

※特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律施行規則第二条第十五号の規定に基づく環境大臣が定める動物及び運搬に係る要件を確認した上で適切な方法で実施すること。



運搬の際は枝をネットで二重に覆う



残った切り株もネットで覆う

